

2016 年冬（2015 年 12 月～2016 年 2 月）の天候への エルニーニョ現象の影響

世界の天候（図 1 及び図 2）：2016 年北半球冬（2015 年 12 月～2016 年 2 月）の世界の天候には、熱帯域を中心とした高温や少雨など、エルニーニョ現象発生時の北半球冬に現れやすい天候の特徴が見られました。東日本～西日本、東南アジア～インド南部、西アフリカ南部、セイシェル～南部アフリカ、カナダ西部付近、カナダ南東部、中米南部～南米北部、中部太平洋熱帯域、インド洋東部～オーストラリア北東部の高温、朝鮮半島～沖縄・奄美周辺、モンゴル西部周辺、米国南東部、中部太平洋熱帯域の多雨、ハワイ諸島、マーシャル諸島～ボルネオ島、南アフリカ東部、南米北部、トンガ周辺、オーストラリア北東部の少雨には、エルニーニョ現象が影響したと考えられます。

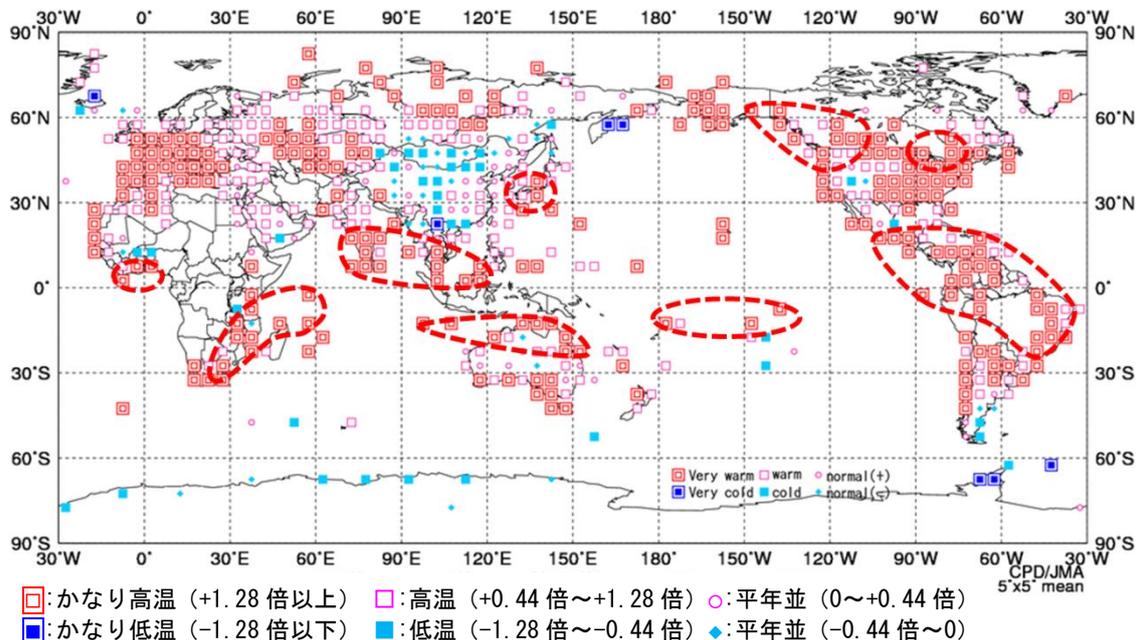


図 1 2016 年北半球冬に観測された平均気温の特徴（平均気温規格化偏差）

気温の年々の変動の大きさは場所によって異なるため、2つの場所の気温の平年差の大きさが同じであったとしても、その気温の「現れやすさ」も同じであるとは限りません。このため、統計的手法を用いて、気温の平年差の「現れやすさ」の程度を示しています。「高温」「低温」のマークは、3～10年に1回程度現れるような高温・低温であったことを、「かなり高温」「かなり低温」のマークは10年に1回程度よりも顕著な高温・低温を表しています。

エルニーニョ現象の影響があったと考えられる高温の領域を赤破線で囲んでいます。

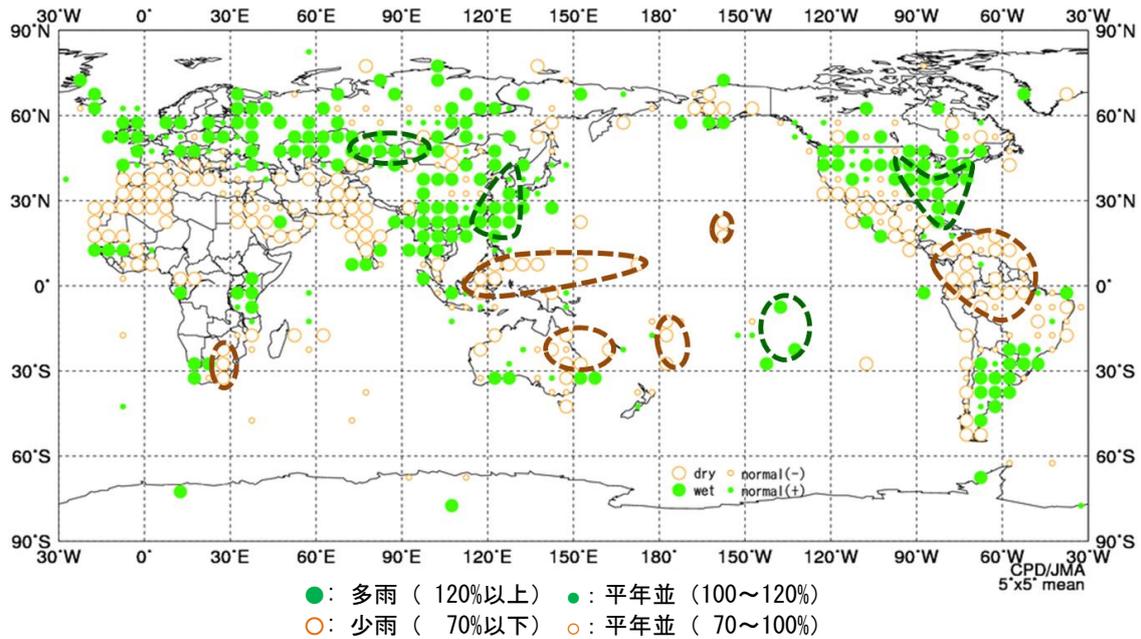


図2 2016年北半球冬に観測された降水量の特徴（降水量平年比）

2016年北半球冬の降水量について、平年の70%以下を「少雨」、70%から120%までを「平年並」、120%以上を「多雨」と表現しています。

エルニーニョ現象の影響があったと考えられる多雨の領域を緑破線で、少雨の領域を茶破線で囲んでいます。

日本の天候：2016年冬は全国的に高温・多雨となりました。エルニーニョ現象に伴うフィリピン付近における積雲対流活動の不活発な状態により、偏西風が日本の西で南へ、日本から日本の東で北へ蛇行し、フィリピン付近の気圧下層では高気圧偏差が強まりました。このため、日本への寒気の南下が弱まり、日本へ南から暖かく湿った空気が流れ込みやすい状態となりました。以上のことから、2016年冬の東日本以西の高温・多雨にはエルニーニョ現象が影響したと考えられます。全国的な高温には、地球温暖化やエルニーニョ現象が継続していることで大気全体の温度が高いことも影響したと考えられます。日本の冬の天候の詳細については、平成28年3月1日報道発表資料「冬（12～2月）の天候」をご覧ください。

図1及び図2は、3月9日までに世界各国の気象機関から通報された2015年12月～2016年2月の観測データを元に気象庁にて作成したものです。これらの図に関連する詳細な情報は、気象庁ホームページ「世界の天候」(<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/monitor/index.html>、毎月14日頃に前月の情報を追加して更新します)からご覧いただけます。